

## 第2章

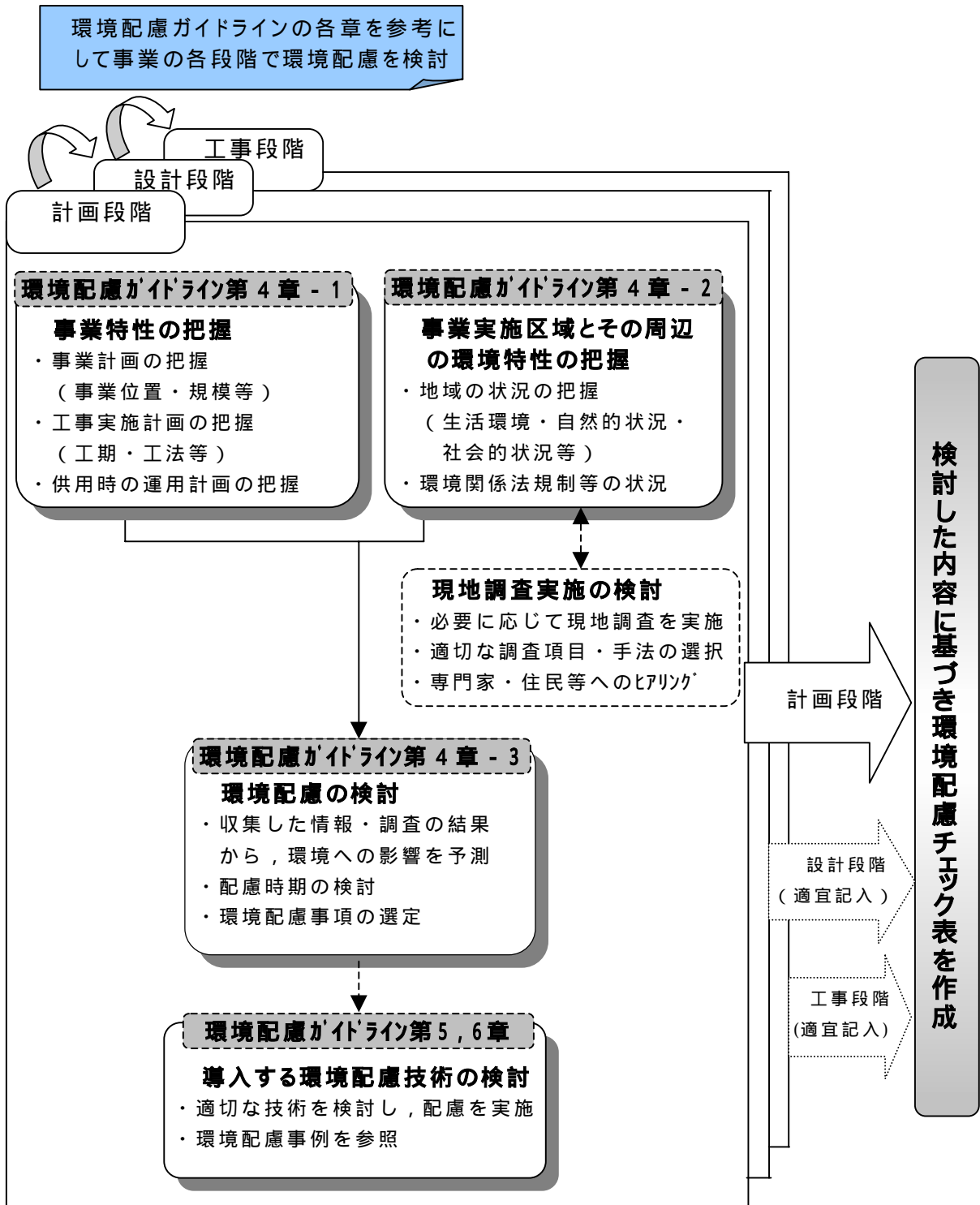
### 本書の活用方法



事業の実施に当たっては、本書の各章を参考にしながら、次の手順で環境配慮の検討を進めます。(図8【環境配慮ガイドラインの活用方法】参照)

なお、環境配慮技術については新しい知見をもとに常に更新していく必要があります。このため、最新技術の動向について情報収集に努め、事業に適用していくことが重要です。

図8 【 環境配慮ガイドラインの活用方法 】



## 環境配慮チェック表の作成方法

要綱に基づき環境配慮チェック表を作成する際は、次の事項に留意します。

### (1) 作成時期

事業の計画段階のなるべく早い時期に作成します。なお、記入したチェック表は設計段階及び工事段階に引き継ぎ、各段階でチェックした内容に従って環境配慮を実施するとともに、必要に応じて追加記入等を行います。

### (2) 対象事業

要綱に定める大規模事業及び中規模事業。(小規模事業については、チェック表の作成は行わなくてもよいが、「事業別環境配慮指針」に留意して事業を実施する。)

なお、大規模事業については、「庁内調整システム」により環境配慮について庁内で協議を行います。

### (3) チェック表の記載方法

- 環境配慮指針適合表への記入は、事業の計画段階から次のとおり行います。

実施又は計画している環境配慮に該当する「環境配慮事例」の欄に (網掛け) を付ける。

該当する個別配慮事項の「配慮した段階」のチェック欄で、配慮した段階[計画・設計・工事]に 印を付ける。

「右側の欄」に配慮した具体的事項を簡潔に記入し、配慮した段階を ~ で ( ) 書きする。

計画段階	設計段階	工事段階
------	------	------

配慮の必要がない事項は、該当する個別配慮事項の「配慮した段階」のチェック欄に「-」(ハイフン)を付ける。

「配慮した段階」のチェック欄は、計画時 設計時 工事時の各段階ごとに具体化・実施していけば、「計画」「設計」「工事」の各欄すべてに 印を付けることになる。

- 計画段階では、具体的な環境配慮事項は記入できないものの、設計又は工事段階での配慮が見込まれる「環境配慮事例」があれば、計画段階で (網掛け) 及び「配慮した段階」のチェック欄(計画の欄)に 印を付け、「配慮した具体的事項」には「設計段階等を実施」などと記載します。
- 設計又は工事段階に配慮事項を具体化したものについては、「配慮した具体的事項」欄に具体的事項を記載し、「配慮した段階」のチェック欄(設計又は工事の欄)に 印を付けます。
- 事業の設計段階又は工事段階で、新たな環境配慮事項を実施することとなった時又は計画段階で予定していた環境配慮事項を変更・中止する場合は、該当する個別配慮事項の「配慮した段階」のチェック欄に 印又は - (ハイフン) を付けるとともに、上記と同様に記入します。

(4) 記載例

環境配慮チェック表			
事業概要			
事業名	****事業	事業実施区域	**市**町(起点) ~**市**町(終点)
事業の種類	道路の整備	事業の内容・規模	県道 4車線, 4km
事業着手予定年月	平成16年度	事業完成予定年月	平成25年度
計画段階の記入者	(所属)*** (職)**** (氏名)*** (連絡先)***		
設計段階の記入者	(所属) (職) (氏名) (連絡先)		
工事段階の記入者	(所属) (職) (氏名) (連絡先)		
事業特性及び事業実施区域とその周辺の環境特性			
事業特性			
事業の目的	・道路網ネットワークの整備 ・交通渋滞の緩和		
工法の概要	・トンネル掘削, 山間部掘削, 埋め戻しあり ・地盤改良あり		
施設の構造	・4車線の道路 ・設計速度 60km/h ・道路規格 第3種2級 ・交通量 20,000台/日以上 ・平面構造(平地部), 堀割・橋脚構造(山間部), トンネル構造(山間部)		
配置計画	・住宅密集地を極力避けた。 ・既存道路との接続は, 起点, 終点のみ		
事業活動及びその他の活動	・サービスエリア, パーキングエリアなし		
事業実施区域とその周辺の環境特性			
民家等の状況	・最寄の民家まで300mあり(起点, 終点は除く。)		
大気環境, 水環境	・良好 ・一山越えた所に名水あり		
自然環境	・良好 ・猛禽類の発見情報あり		
希少動植物	・猛禽類の飛来以外の希少動植物の生息情報なし		
快適な生活空間	・ルート付近に指定された自然歩道なし		
歴史的景観	・特記事項なし		
文化財	・特記事項なし		
その他	・「ふるさと広島の景観の保全と創造に関する条例」に基づく大規模行為届出対象地域		
(備考) 参考資料を添付してください。			

**チェック表の作成時期**  
事業の計画段階のなるべく早い時期にチェック表を作成  
設計・工事段階に引き継ぎ  
必要に応じて追加記入等実施

**ガイドライン第4章 - 1**  
**事業特性の把握**  
事業計画・工事实施計画・供用時の運用計画等から, 事業による環境への影響を調査・把握します。

**ガイドライン第4章 - 2**  
**事業実施区域とその周辺の環境特性**  
地域の生活環境, 自然的状況, 社会的状況等に着目し, 環境上重要な要素を把握します。

環境配慮指針適合表				
1 道路の整備				
基本目標	環境配慮事項	配慮した段階		配慮した具体的事項
	個別配慮事項 環境配慮事例	計画	設計 工事	
環境への負荷が少ない循環型社会広島	<b>大気環境, 水環境の保全</b> 路線の選定は, 地域環境の保全, 土地利用等との整合を図る。 ■複数の場所や路線の検討 ■希少動植物の生息地を回避 ■住宅密集地を回避 ■貴重な自然環境地域を回避 その他	○		【計画, 設計, 工事】 ・3ルートを検討( ) ・A町B地区を回避( )
	<b>廃棄物の発生抑制, リサイクルの推進</b> 建設発生土の発生抑制, 有効利用, 適正処理に努める。 建設発生土の発生抑制, 分別保管, 工事間利用, 適正処理(建設副産物適正処理実施要領及び再生資源利用促進実施要領の運用, 広島県地球温暖化実行計画に基づく取組)その他	○		設計段階等に実施( )

**ガイドライン第4章 - 3**  
**環境配慮の検討**  
把握した事業の環境情報に基づき, 環境配慮する事項の検討を行います。

**ガイドライン第5, 6章**  
**導入する環境配慮技術の検討**  
環境配慮の技術や事例を参考に, 導入する環境配慮事項を検討します。

